

静岡放送

活動名	メディアリテラシー「放送の仕事とは」
実施期間	令和7年12月16日・18日
実施回数	学校訪問2回

【実施学校】 焼津市立黒石小学校、静岡市立千代田小学校

【事業実施の成果・課題】

＜黒石小学校・成果＞

- ・ニュース番組などでの適切な言葉使いについて、理解を深められた。
- ・アナウンサーの仕事は、「準備が大切」ということを伝えられた。
- ・スポーツや楽器でも練習を重ねることで力がついてくることを例に、「喋る」こと（発表すること）も練習をすればうまくないと話すと納得したようだった。
- ・番組を見てみようのパートで流した、情報番組内の「焼津市の子育て環境の良さ」VTRは、地元の話題ということもあり、児童たちは関心を示していた。

＜黒石小学校・課題＞

- ・実践的なインタビュー演習などもしたかったが、時間的な制約から断念せざるを得なかったため、次回は児童が実践する時間も設けたい。

＜千代田小学校・成果＞

- ・千代田小学校の6年生に、放送事業を詳しく理解してもらうことができた。
- ・今後、彼らが直面する情報との向き合い方について、考えてもらう時間をとれた。
- ・元々、小学生時代には話すことが苦手だった私（牧野）が、その後、伝えることの楽しさに気づき、アナウンサーになった過程を話すことで、話すことが苦手でも、練習をすれば確実に上達することを感じてもらえた。
- ・フェイクニュースが増えている中で、どう見極めるかのポイントを知ってもらうことができた。

＜千代田小学校・課題＞

- ・フェイクニュースの作り方が日進月歩で巧妙化する中で、すべてを見極める方法までは伝えることができないこと。また、伝えた情報も私が知る限りのものであり、講師によって伝え方も変わってしまう可能性が高く、日々変わるもので正解が変わり続けるものに関して、伝え方の難しさを感じた。

【事業担当者・講師の感想】

＜黒石小学校 講師の感想＞

テレビ視聴が減少傾向にも関わらず、小学生たちはテレビやラジオに関する話題に強い興味を示しているようでした。とりわけ、ニュース放送における留意点に対する関心が高いように感じました。

＜千代田小学校 講師の感想＞

6年生の皆さんが非常に興味を持って聞いてくれて良かったです。

話をすることに対して、苦手意識を持っている児童が過半数を占める中で、「苦手こそチャンス」で、磨けば伸びる可能性が高いことを伝えました。

また、情報を扱う上で、放送局がどのような人が関わってどんなことを考えながら発信しているかを深く知ってもらいました。

さらに、それを個人に置き換えた際には、SNS などにあふれる真偽の怪しい情報へどう向き合うべきかを考えてもらいました。ワークショップ形式の時間も設けたことで、双方向性のある内容になったかと思います。一方で、数年前と比べて小学生が SNS に接する年齢が低年齢化しており、非常に詳しく知っている児童も多いので、自身も、年々バージョンアップしていかなければ、伝えることは今後難しくなると感じました。

【教諭・子どもたち・視聴者などの感想】

＜黒石小学校 教諭の感想＞

子どもたちの振り返りには、テレビの制作についての理解が深まったことや情報を発信する際の言葉遣いなどについての内容が書かれ、更に一段学びが深まった様子が見られました。

＜千代田小学校 教諭の感想＞

6年生ということで、6年間の総まとめをする時期でした。「心に残る言葉」として、牧野さんの言葉を書いた児童も多かった。

「苦手なこともチャンスになる」という言葉が響いた子が多かったようです。